

第14期(2019年3月期)第2四半期決算説明会

2018年11月27日



アジアパイルホールディングス株式会社

目次

I 決算のポイント、主なトピックス	1
II マーケットの動向	16
III 決算概要(連結)	21
IV 経営概況	26

I 決算のポイント、主なトピックス

I-1 決算のポイント

➤ 2019年3月期 第2四半期連結業績の概況

(%表示は対前年同期比増減率)

売上高	営業利益	経常利益
434億円 (+16.4%)	29億円 (+121.6%)	27億円 (+132.2%)

上半期
売上・利益共
過去最高

➤ 国内、海外の状況

国内	大型工事増加 前期繰越工事完工	+	工事採算改善
海外	ベトナムPV社 売上順調に推移し業容拡大		ミャンマーVJP社 7月出荷開始、売上計上

国内
大幅増収増益

海外
業容拡大中

➤ 部門別売上高

コンクリートパイル
前年同期比+23.4%の増収

場所打杭
同+19.6%の増収
引き続き好調推移

鋼管杭
大型土木工事の減少により減収

コンクリートパイル・場所打杭
が好調推移

I-2 主なトピックス

国内展開

新工法 <MAGNUM工法> 開発

高強度123NT杭< MAGNUM工法対応>全国生産体制整備

工事管理ICT導入：テスト運用開始

海外展開

ベトナムPV社：FCM買収・北部事業の一層の展開

ミャンマーVJP社：7月出荷開始で本格稼働

資金調達

公募増資による国内・海外における積極的事業展開

I-3 主なトピックス

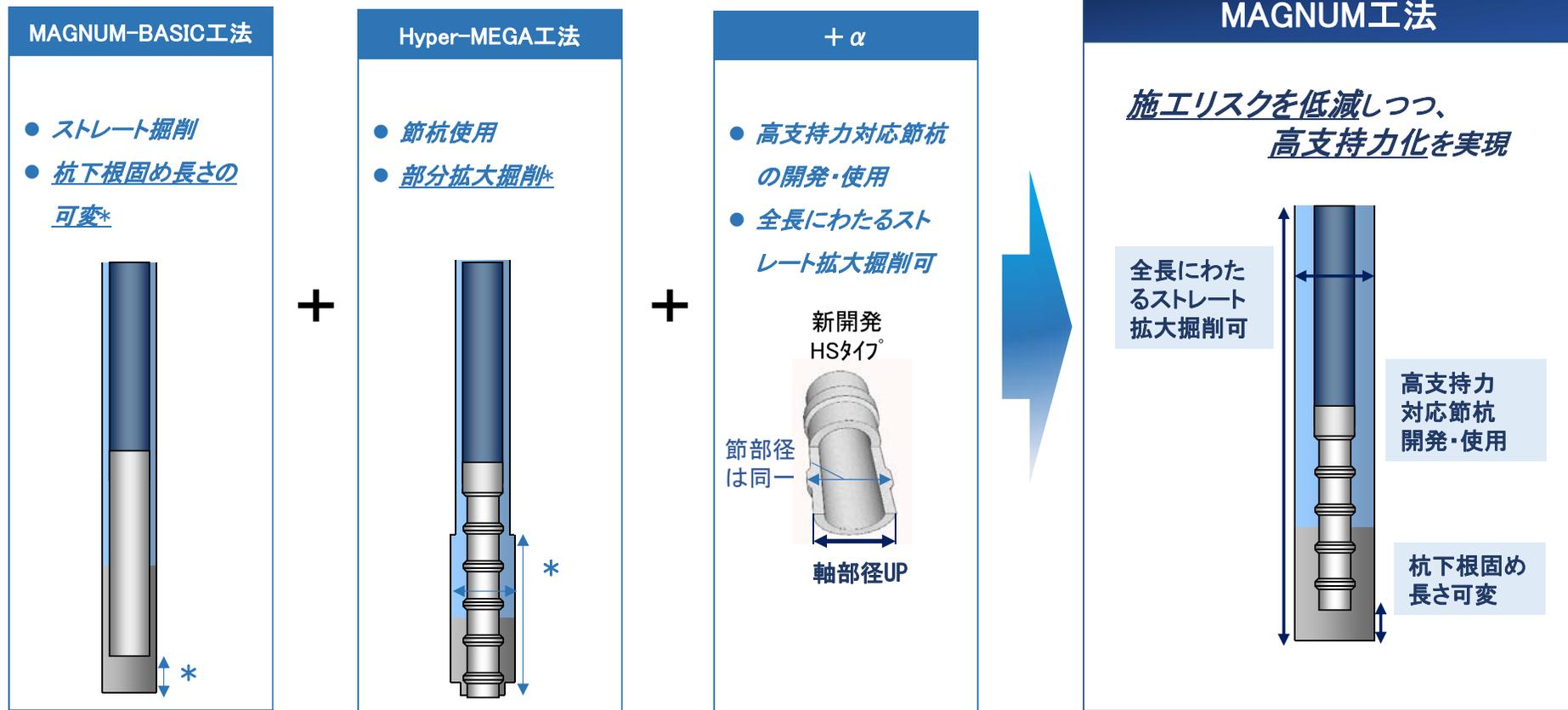
国内展開

新工法 <MAGNUM工法> 開発

- 「MAGNUM工法」の開発
 - 2018年8月 国土交通大臣認定の取得
 - 2018年9月～新聞発表
 - 9月28日付「日刊建設工業新聞」
 - 10月1日付「セメント新聞」
 - ～2018年下期より営業展開

MAGNUM工法

➤ 既存工法の優れた点を集め、新たな価値を+α



技術開発 新工法一覧

➤ 大型工事対応、高支持力実現のため、戦略的・多面的技術開発を推進



I-4 主なトピックス

国内展開

高強度123NT杭< MAGNUM工法対応>全国生産体制整備

- MAGNUM工法に対応する高強度123NT杭の全国生産体制整備

工事管理ICT導入：テスト運用開始

- タブレット端末による施工データの管理
実用化に向けたテスト運用開始

I-5 主なトピックス

海外展開

ベトナムPV社：FCM買収・北部事業の一層の展開

➤ PV社

事業基盤確立し、業容拡大継続中

2018年9月 ベトナム北部の更なる基盤拡大を図る為に、Fecon Mining Joint Stock Companyの株式を51%取得(取得価格約10億円)

ミャンマーVJP社：7月出荷開始で本格稼働

➤ VJP社ティラワ工場

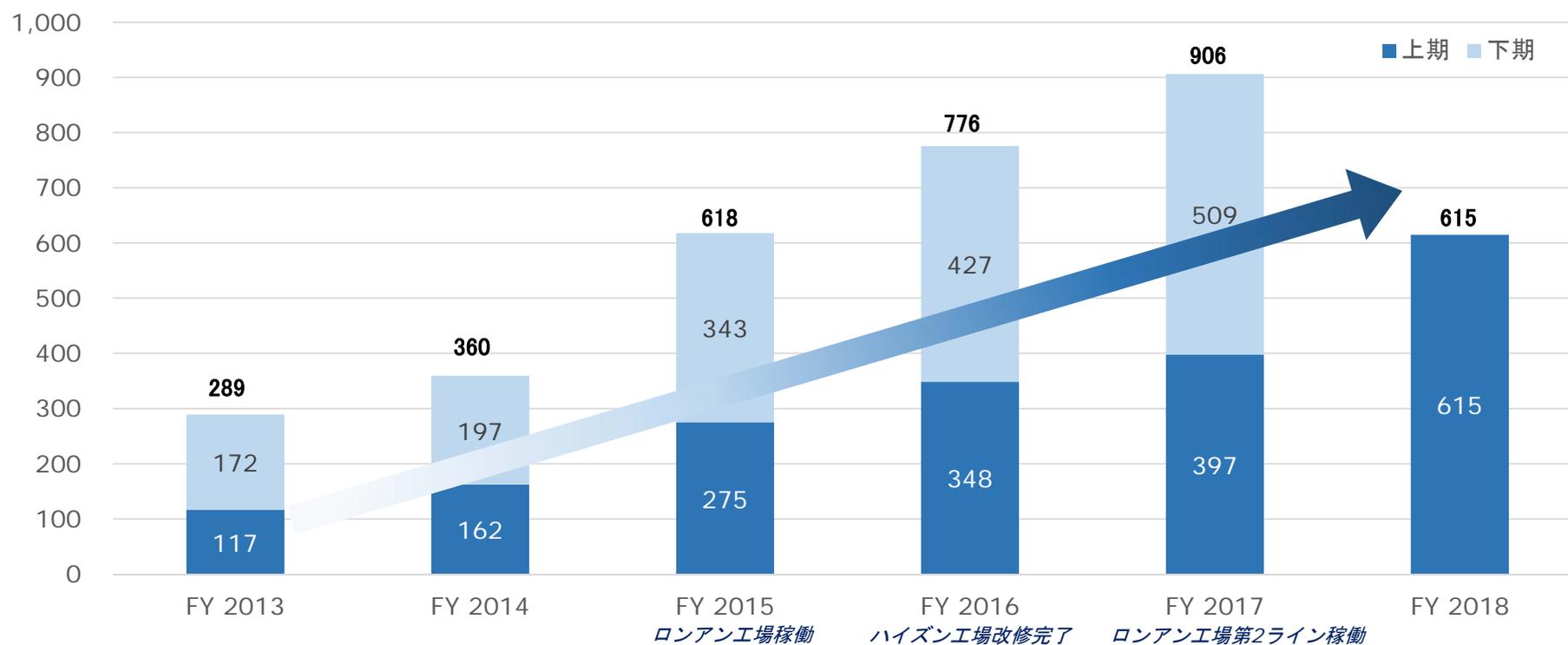
2018年4月 営業許可を取得

2018年5月 コンクリートパイルを生産開始

2018年7月 出荷を開始し、売上高を計上(上期:0.6億円)

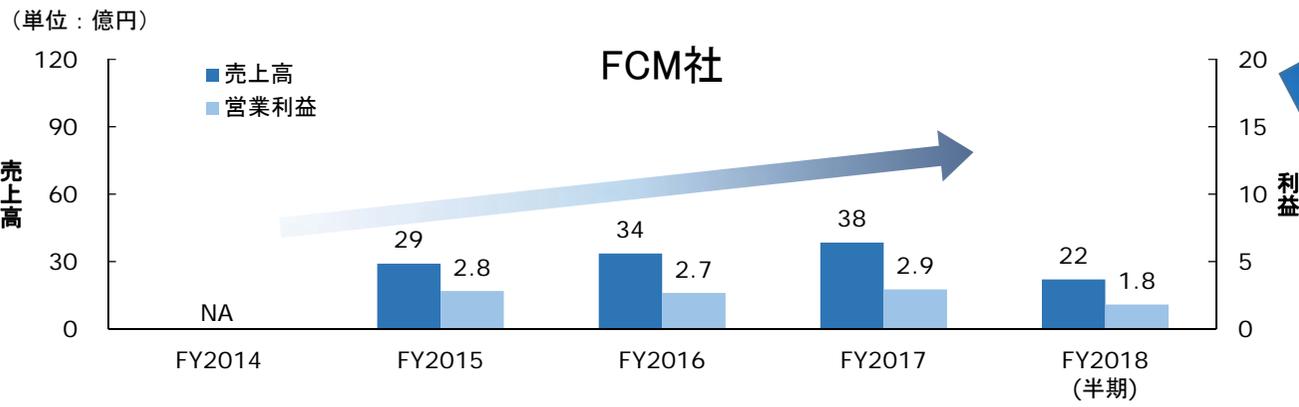
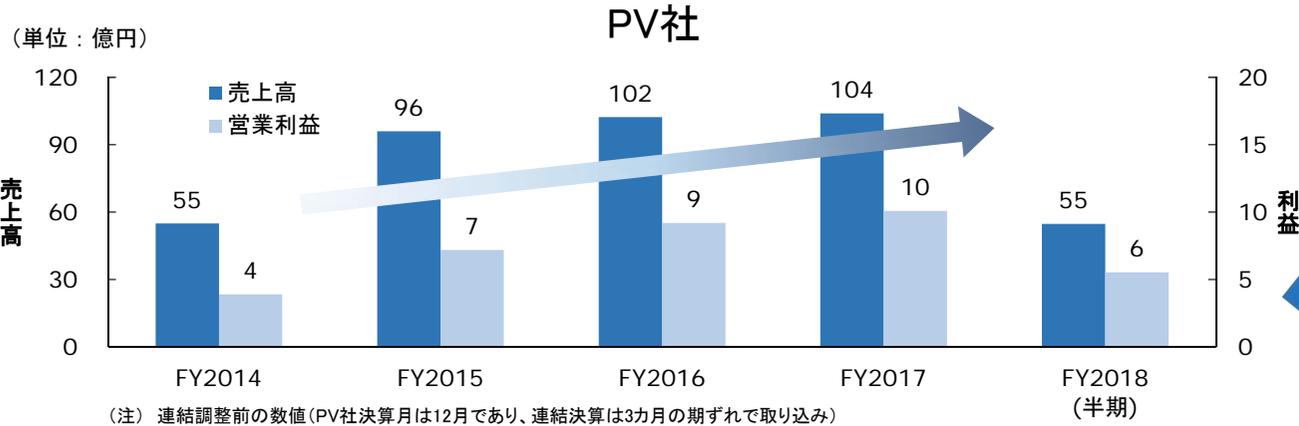
ベトナムPV社の生産量推移

(単位：千トン)



➤ PV社生産量は飛躍的に増加し、ジャパンパイルの生産量を上回る

ベトナムPV社の業績推移

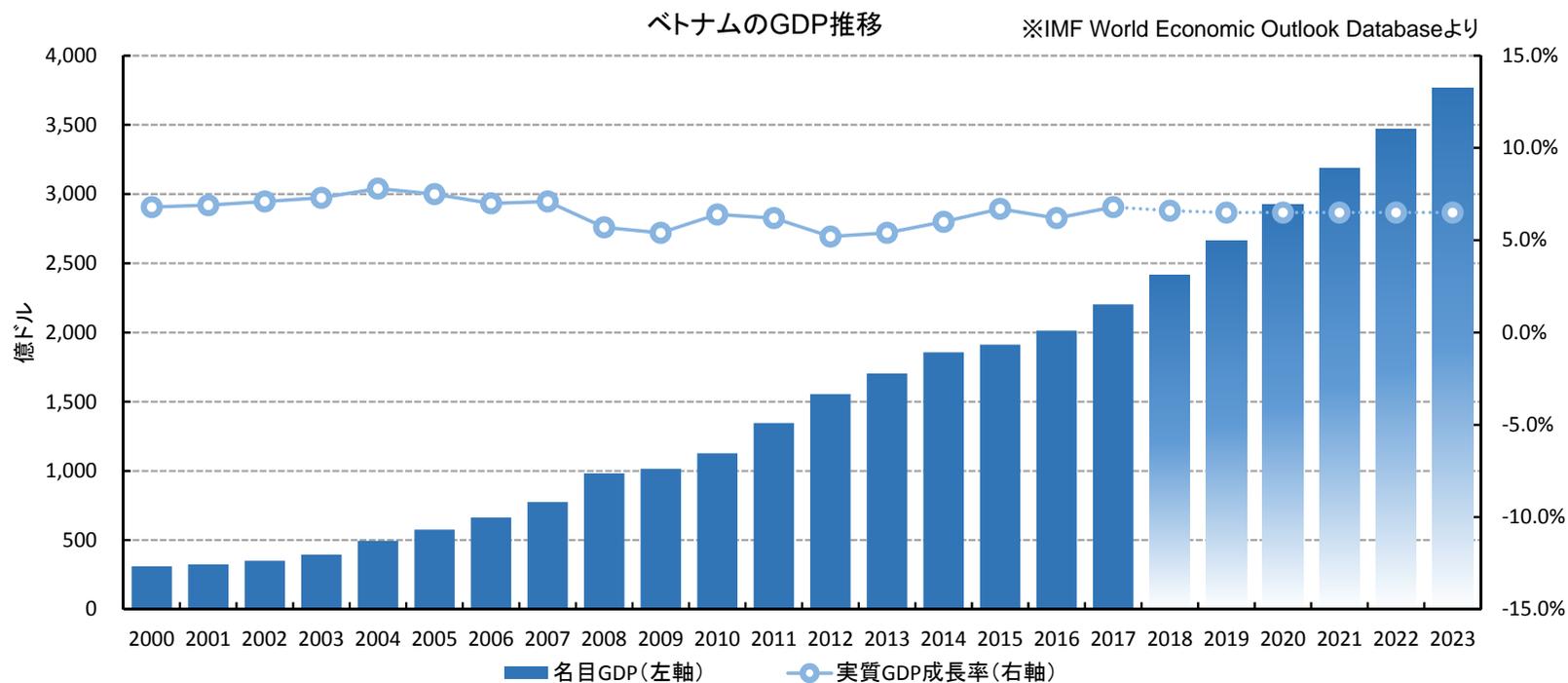


2018年9月26日
FCM社買収
(連結子会社化)



成長マーケットである
ベトナム北部における
一層の基盤拡大

(ご参考) ベトナムのGDP推移



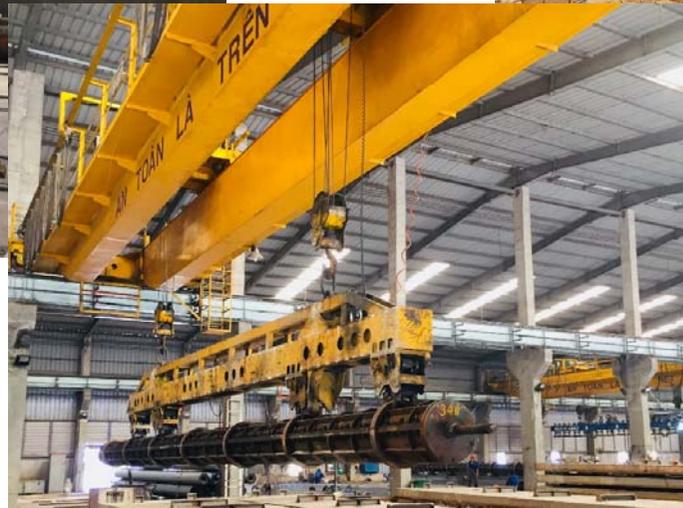


ベトナム



アジアパイルホールディングス株式会社

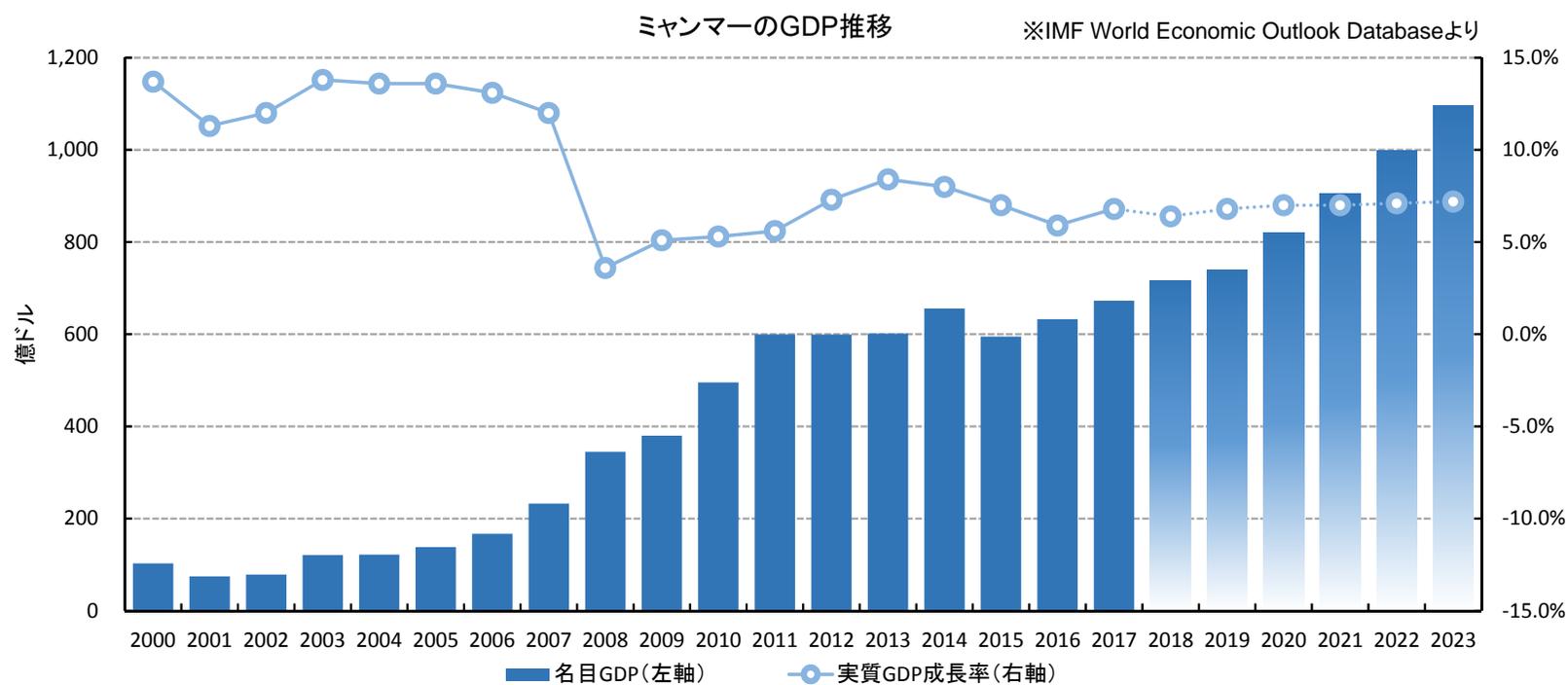
ロンアン工場



The first project in Hanoi capital to apply the pre-boring method



(ご参考)ミャンマーのGDP推移



ティラワ工場



I-6 主なトピックス

資金調達

公募増資による国内・海外における積極的事業展開

- 公募増資(発行決議日:9月28日)により、22億8千万円を調達
- 主な資金使途
海外M&A資金(10億円)、海外事業資金(5億円)
国内設備投資(7億8千万円)

【過去増資等実績】

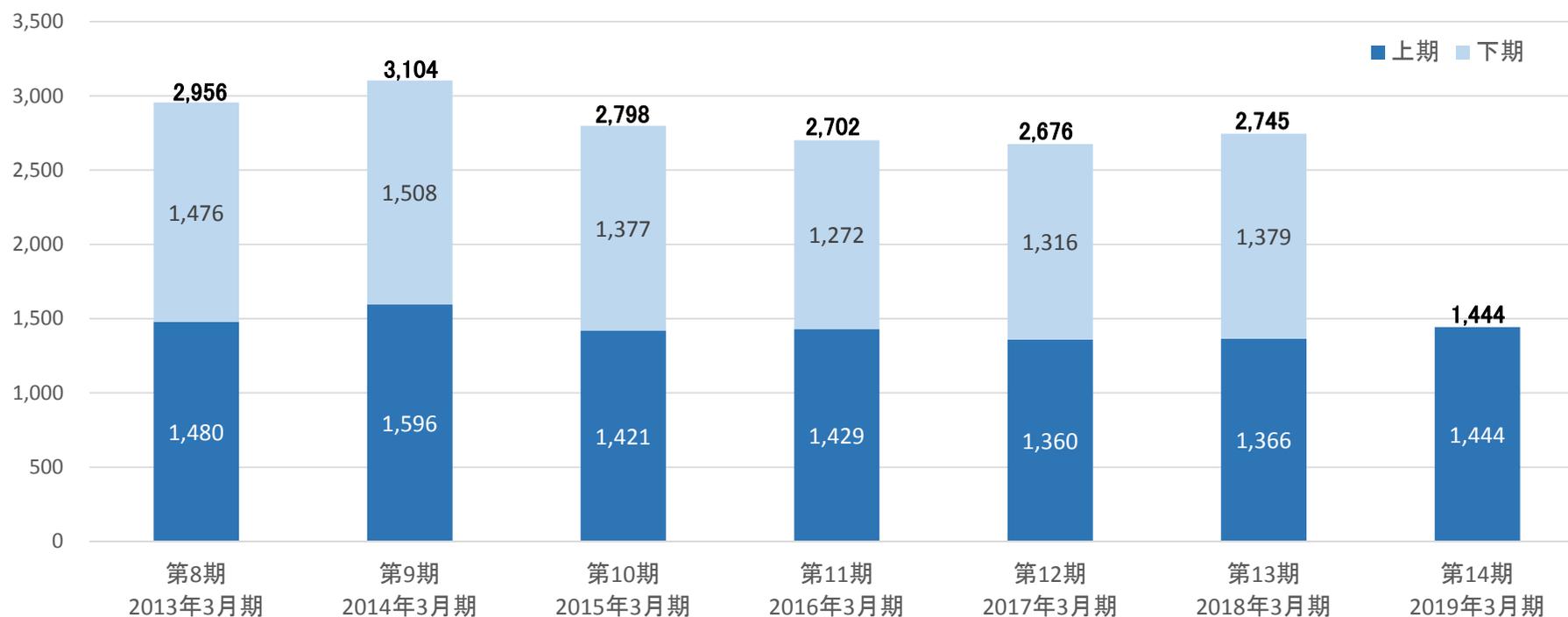
年月	種類	調達額	主要目的
2012年12月	公募・0A	11億円	海外投資・国内事業資金
2013年12月	公募・自己株・0A	48億円	海外投資・国内設備資金

Ⅱ マーケットの動向

Ⅱ-1 全国コンクリートパイロ出荷量

(単位：千トン)

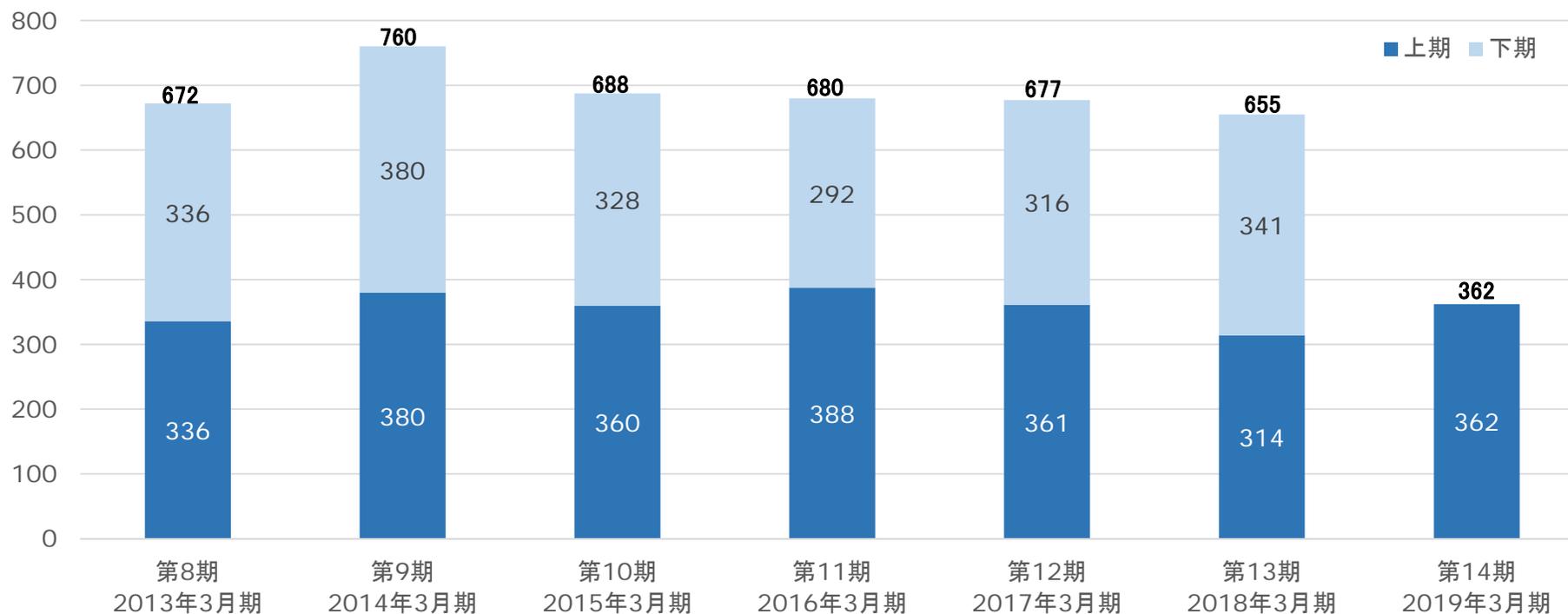
(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料



➤ 2018年度上期は前年同期比 5.8%増加

Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイプ完成量(国内)

(単位：千トン)



➤ 2018年度上期は前年同期比 15.0%増加

Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

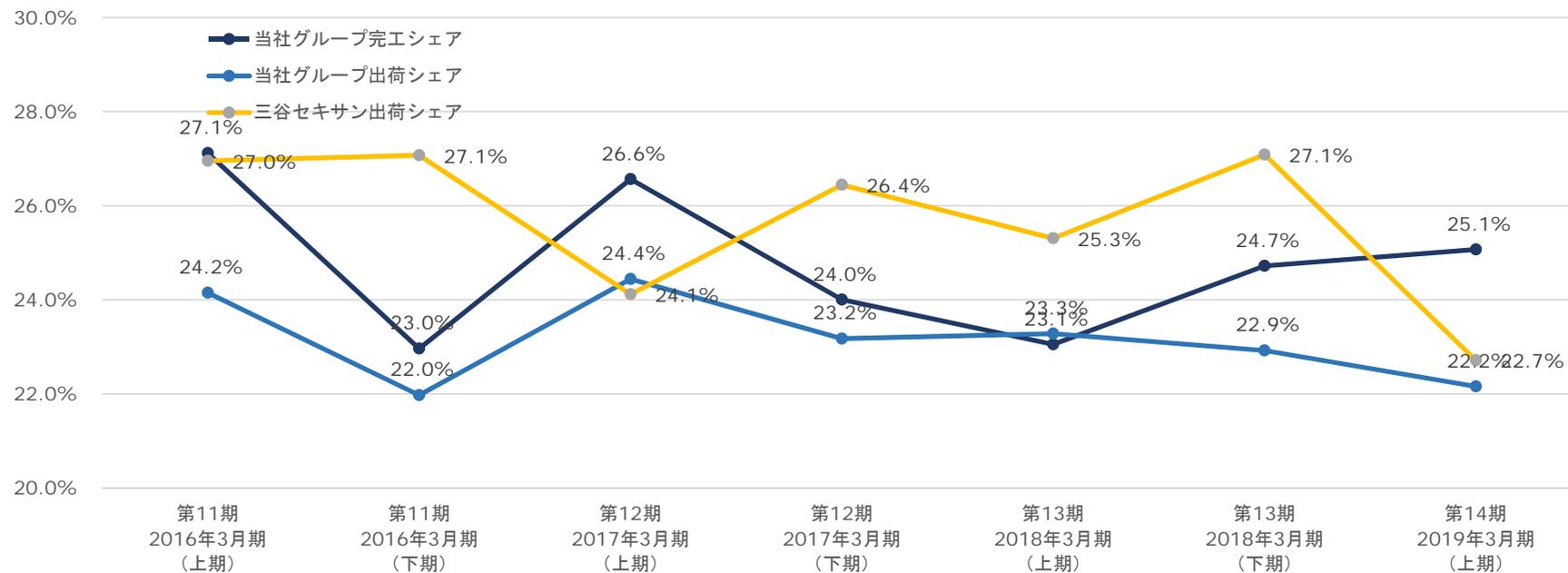
(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料および当社社内資料

		第11期 2016年3月期		第12期 2017年3月期		第13期 2018年3月期		第14期 2019年3月期
		(上期)	(下期)	(上期)	(下期)	(上期)	(下期)	(上期)
当社グループ	完工量(千t)	388	292	361	316	315	341	362
	シェア	27.1%	23.0%	26.6%	24.0%	23.1%	24.7%	25.1%
三谷セキサン	出荷量(千t)	345	280	332	305	318	316	320
	シェア	24.2%	22.0%	24.4%	23.2%	23.3%	22.9%	22.2%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	385	344	328	348	346	374	328
	シェア	27.0%	27.1%	24.1%	26.4%	25.3%	27.1%	22.7%
日本ヒューム	出荷量(千t)	113	104	108	105	142	115	182
	シェア	7.9%	8.2%	7.9%	8.0%	10.4%	8.3%	12.6%
トーヨーアサノ	出荷量(千t)	123	127	131	118	126	162	144
	シェア	8.6%	10.0%	9.6%	9.0%	9.3%	11.8%	10.0%
その他	出荷量(千t)	75	83	72	98	86	92	93
	シェア	5.3%	6.6%	5.3%	7.4%	6.3%	6.7%	6.4%
業界全体	出荷量(千t)	388	333	389	342	348	320	377
	シェア	27.1%	26.2%	28.6%	26.0%	25.5%	23.2%	26.1%
業界全体	出荷量(千t)	1,429	1,272	1,360	1,316	1,366	1,379	1,444
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ-4 コンクリートパイルのシェア推移(国内)

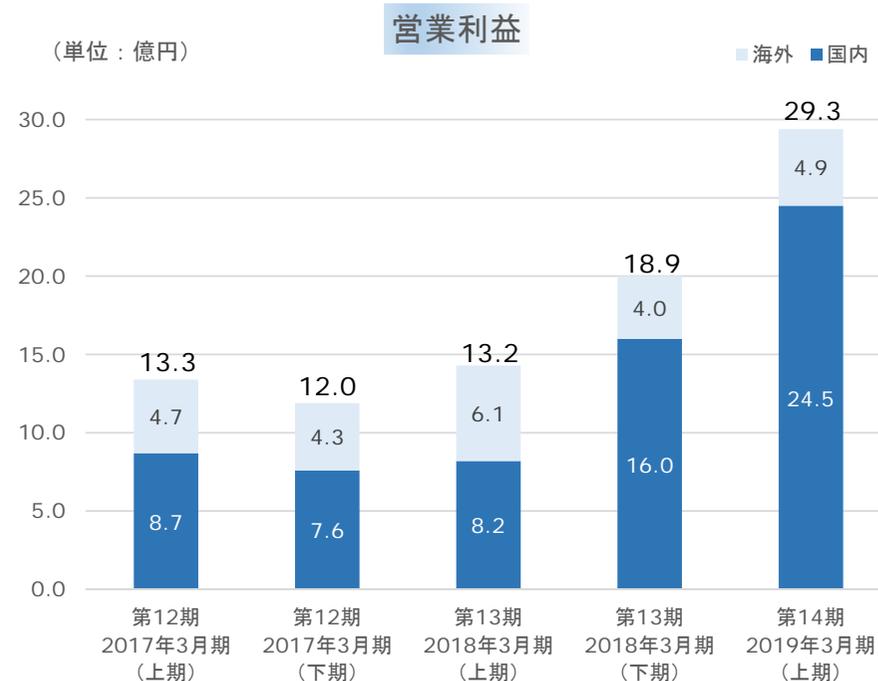
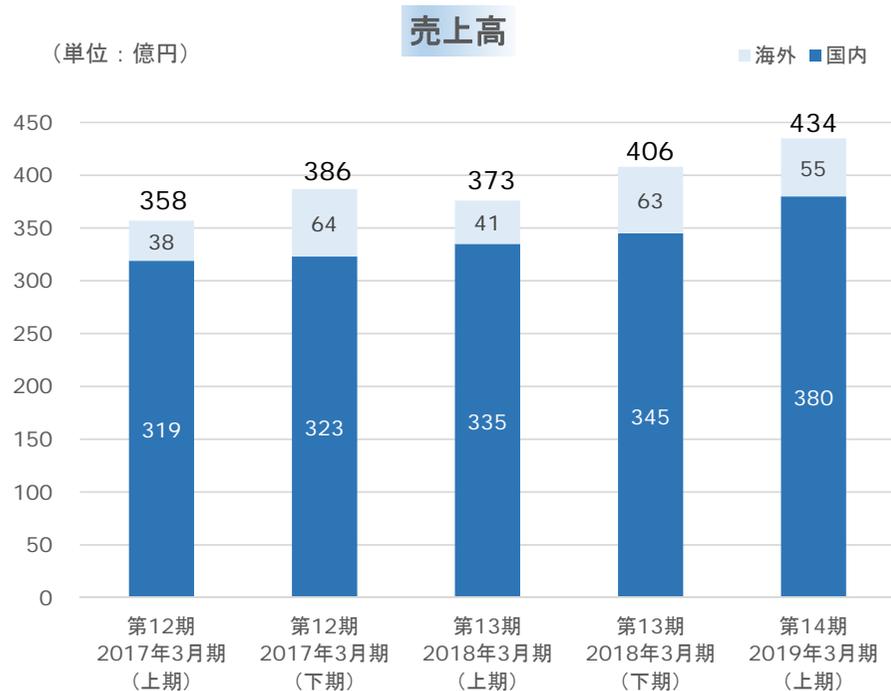


(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料および当社社内資料



Ⅲ 決算概要(連結)

Ⅲ-1 売上高・営業利益の推移

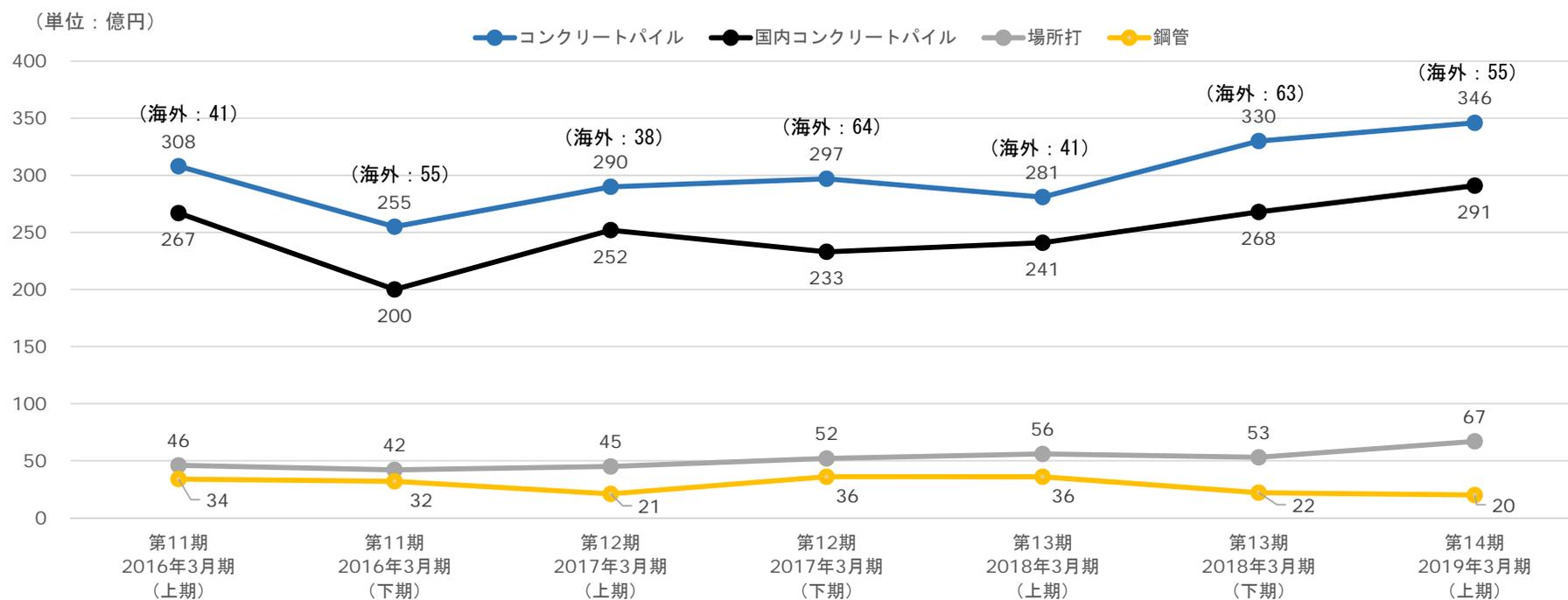


➤ 2018年度上期売上高は前年同期比 +16.4%の増収

➤ 営業利益は前年同期比 +121.6%の増益

(注) 売上高、営業利益の国内・海外内訳については連結調整前の数字を表示しております。

Ⅲ-2 部門別売上高の推移



Ⅲ-3 損益計算書

(単位:百万円)	第10期 2015年3月期		第11期 2016年3月期		第12期 2017年3月期		第13期 2018年3月期		第14期 2019年3月期	
	(上期)	通期								
売上高	32,485	67,169	39,003	72,078	35,806	74,422	37,365	77,994	43,491	82,000
売上総利益	5,239	10,613	5,602	10,097	5,159	10,463	5,264	11,336	7,089	-
営業利益	1,640	3,573	1,679	2,324	1,334	2,534	1,325	3,223	2,937	3,800
経常利益	1,718	3,666	1,671	2,235	1,203	2,382	1,203	2,997	2,794	3,450
税金等調整前当期純利益	1,710	3,415	1,679	2,286	1,196	2,198	1,214	3,019	2,912	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,157	2,396	1,132	1,432	846	1,629	761	1,911	1,986	2,250
売上高総利益率	16.1%	15.8%	14.4%	14.0%	14.4%	14.1%	14.1%	14.5%	16.3%	-
自己資本当期純利益率	-	10.2%	-	5.8%	-	6.3%	-	7.0%	-	-

Ⅲ-4 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第10期 2015年3月期		第11期 2016年3月期		第12期 2017年3月期		第13期 2018年3月期		第14期 2019年3月期
	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)
I. 営業活動によるキャッシュフロー	658	4,249	△ 453	870	△ 676	2,296	288	1,750	△ 211
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 455	△ 3,140	△ 1,341	△ 3,902	△ 1,048	△ 2,502	△ 2,017	△ 3,001	△ 1,769
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 1,112	△ 2,016	1,800	2,670	△ 1,508	△ 1,177	1,668	2,014	77
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	10,651	10,741	10,675	10,301	6,874	8,759	8,611	9,424	7,478

IV 経営概況

IV-1 経営概況

1. 本年度上期の特徴

- (1) 前年度の摘み残しの高収益物件の完工
- (2) 夏場以降の首都圏の不調と西日本地区の好調
- (3) 大型工事比率の上昇
- (4) 場所打ち杭の好調
- (5) 海外の好調と拡大

IV-2 経営概況

2. 下期以降の事業環境

(1) 日本経済は下降傾向

(2) 業界は下期弱気へ

IV-3 経営概況

3. 当社の当面の方針

- (1) 新規開発商品をフル活用
- (2) 海外部門の更なる拡大

IV-4 経営概況

4. 当社の長期方針

- (1) 大規模工事を業務の中心に
- (2) 場所打ち部門の拡大強化
- (3) 海外部門の拡大と連携の強化

5. 創業以来の軌跡を振り返って



アジアパイルホールディングス株式会社

Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。